

MySQL 5.5.34 リリースノート（日本語翻訳）

監査ログのプラグインの注意

- MySQL 5.7 は Oracle Audit Vault と、より互換性がある新しいフォーマットへ監視ログファイルを出力できるように変更された。このフォーマットは MySQL 5.6 へバックポートされた。また、新しいシステム変数である [audit_log_format](#) を使用して、古いフォーマットか新しいフォーマットのいずれかを選択することが可能。[audit_log_format](#) は `OLD` と `NEW`（デフォルトは `OLD`）の値を許可している。それぞれのフォーマットの詳細については、[The Audit Log File](#) 参照。

さらに、監査ログプラグインが監査ログファイルをローテートする場合、別のファイル名の形式を使用する。`audit.log` というファイルは、以前のプラグインでは `audit.log.TIMESTAMP` というファイル名にリネームしていた。現在は、XML ファイルであることを示すためファイル名を `audit.log.TIMESTAMP.xml` にリネームする。

[audit_log_format](#) の値を変更する場合は、異なる形式のエントリが含まれている既存のログファイルに、1つのフォーマットでログエントリを書くのを避けるため、以下の手順を使用。

- サーバを停止する。
- 現在の監査ログファイルを手動でリネームする。
- 新しい [audit_log_format](#) の値でサーバを再起動する。監査ログプラグインは選択した形式でログエントリが含まれる新しいログファイルを作成する。

監査プラグインを記述する API も変更された。`mysql_event_general` ストラクチャーはクライアントのホスト名と IP アドレス、コマンドクラス、外

部ユーザを表すための新しいメンバーを持っている。詳細については、[Writing Audit Plugins](#) を参照。

修正されたバグ

- **InnoDB**; パーティショニング: [INFORMATION_SCHEMA.PARTITIONS](#) テーブルのクエリ後、[SELECT * FROM INFORMATION_SCHEMA.STATISTICS](#) などのステートメントの出力に示される **InnoDB** インデックスの統計情報が、行数が最も多いパーティションからではなく、直前のパーティションから読み取られていた (Bug #11766851、Bug #60071)。

参考: Bug #16882435、Bug #69179 も参照。

- **InnoDB**: [row_sel_sec_rec_is_for_clust_rec](#) 関数がセカンダリインデックスの NULL カラムプリフィックスとクラスタ化されたインデックスの非 NULL カラムの比較を間違っプリペアしていた (Bug #17312846)。
- **InnoDB**: 削除マークの付いたレコードへの更新のロールバック時に間違っったページが発生していた (Bug #17302896)。
- **InnoDB**: **InnoDB** が名前に文字列「_ibfk_」を含むユーザ定義の外部キー制約の名前を変更し、制約が重複していた (Bug #17076737、Bug #69693、Bug #17076718、Bug #69707)。
- **InnoDB**: [BLOB](#) 書き込みの失敗後に [INSERT](#) をロールバックすると、表明違反になっていた。[BLOB](#) 書き込み時にエラーが発生した場合、NULL [BLOB](#) ポインタを許容するように表明が修正されている (Bug #16971045)。
- **InnoDB**: Bug #11762038 の修正により導入された退化により、**InnoDB** は間違ったエラーメッセージを発生させていた。“InnoDB cannot delete/update rows with cascading foreign key constraints that exceed max depth of 20” というメッセージである。このエラーメッセージは、外部キー

- 制約を持たない InnoDB テーブルからの接続読み取りの強制終了時に発生していた (Bug #16710923)。
- **InnoDB:** 現在のアイソレーションレベルが REPEATABLE READ または SERIALIZABLE の場合に限り、START TRANSACTION WITH CONSISTENT SNAPSHOT が一貫性のあるスナップショットを提供する旨がドキュメンテーションに間違っで記載されていた。START TRANSACTION WITH CONSISTENT SNAPSHOT は REPEATABLE READ とのみ連携する。その他すべてのアイソレーションレベルは無視される。ドキュメンテーションは修正され、WITH CONSISTENT SNAPSHOT 句が無視される場合に警告が生成されるようになった (Bug #14017206、Bug #65146)。
 - **InnoDB:** サーバアクティビティを監視し、サーバが非アクティブまたはシャットダウン状態であるとページフラッシュなどのアクティビティを行う srv_master_thread バックグラウンドスレッドは、1 秒の遅延ループで実行される。srv_master_thread はスリープ状態に入る前に、サーバがシャットダウン状態であるかどうかチェックしていなかった (Bug #13417564、Bug #63276)。
 - **InnoDB:** 圧縮のみのページを処理する場合、buf_page_get_gen で無限ループが発生する可能性があった (Bug #12560151、Bug #61132)。
 - **パーティショニング:** CREATE TABLE ... PARTITION BY LIST ... PARTITION ... VALUES IN (NULL) を使用してテーブル t1 を作成した後、CREATE TABLE ... LIKE t1 を実行しようとする、サーバが失敗していた (Bug #16860588)。
 - **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションを使用するスレーブが、タイプ MYSQL_TYPE_DECIMAL のカラムを含む行を正しく読み取ることができなかった (MySQL 5.0.3 まで使用されていた旧式の decimal)。現在では、このタイプのデータを受け取った場合、スレーブはエラーが発生されるようになった。ALTER TABLE で、旧式の DECIMAL 形式は現在の

MySQL リリースで 사용되는バイナリ形式に変換できる。詳細については、[Upgrading from MySQL 4.1 to 5.0](#) を参照 (Bug #16416302)。

- **レプリケーション: `DROP TEMP TABLE IF EXISTS` ステートメント**で、ポイントインタイムリカバリ操作時にバイナリログの適用エラーを招く可能性があった。これは、行ベースのレプリケーションを使用した場合、サーバはバイナリログに書き込まれる `DROP TEMPORARY TABLE` ステートメントに `IF EXISTS` を追加するのに対し、スレーブの SQL スレッドでは `DROP TEMPORARY TABLE IF EXISTS` について*ワイルドカードフィルタルールをチェックしないからである。スレーブでも `--log-slave-updates` が有効になっている場合、このようなステートメントの前に `USE` ステートメントが付けられる。`USE` ステートメントによって参照されるデータベースが存在しない場合、ステートメントは失敗し、レプリケーションを停止していた。

現在では、`DROP TEMPORARY TABLE IF EXISTS` をバイナリログに書き込む場合、`USE` ステートメントは書き込まれず、`DROP TEMPORARY TABLE` ステートメントのテーブル名は完全修飾されたテーブル名になっている (Bug #16290902)。

- **`ER LOCK DEADLOCK` エラー** (または、`innodb rollback on timeout` が有効な場合は、`ER LOCK WAIT TIMEOUT` エラー) 後、セーブポイントを正しく使用できなかった (Bug #17356954)。

参考: このバグは Bug #14188793 による退化である。

- ストアドプログラム内で、スカラサブクエリの値と `IN` 句を比較したときに、最初の実行ではエラーになり、2 番目の実行では表明が発生していた (Bug #17029399)。
- スレッドプールプラグインで競合状態が発生すると、`Aborted connects` などのステータス変数がインクリメントされず、同

- じスレッド ID に対して強制終了が同時に発生する可能性があった (Bug #16959022)。
- `my_strtol110()` 関数が一部の長い文字列形式の数字を数値に間違っ
て変換し、オーバーフローフラグを設定できない可能性があった (Bug
#16997513)。
 - ストアドプロシージャ内で、パーティションを含むテーブルに対してプリペ
アド `CREATE TABLE` ステートメントを繰り返し実行すると、サーバが終了
する可能性があった (Bug #16614004)。
 - メタデータロックを伴うデッドロックと `InnoDB` デッドロックはどちらも
`ER_LOCK_DEADLOCK` エラーとしてレポートされていたが、`InnoDB` デッ
ドロックだけがトランザクションをロールバックしていた。現在では、どち
らのデッドロックもトランザクションをロールバックするようになった (Bug
#14188793)。
 - サブクエリ内で `INFORMATION_SCHEMA` テーブルにアクセスするクエリ
で、すでにロックされているミューテックスをロックしようとする、サーバ
がクラッシュする可能性があった (Bug #11765744)。
 - イベントスケジューラ、イベント実行、または新しい接続について新しい
スレッドを作成できなかった場合、エラーログにメッセージが書き込まれ
なかった。この結果、イベントスケジューラがあたかも正常に実行してい
るかのような印象を与える可能性があった (Bug #67191、Bug
#14749800、Bug #16865959)。
 - `mysqldump` が `SET` ステートメントを `SET OPTION` として書き込んでい
た。廃止された `OPTION` キーワードは `SET` 構文から削除されているため、
再ロードすると失敗していた (Bug #67507、Bug #15844882)。
 - 1 つの接続でデフォルトのデータベースを変更すると同時に、もう 1 つ別
の接続で `SHOW PROCESSLIST` を実行した場合、2 番目の接続で最初
の接続のデフォルトのデータベースを表示しようすると、不正なメモリ
にアクセスする可能性があった (Bug #58198、Bug #11765252)。
 - `InnoDB` デッドロックにより、トランザクションはロールバックされたもの
の、メタデータロックは解除されず、そのデッドロックを取得した接続が明

示的な **COMMIT** または **ROLLBACK** を発行するまでトランザクションテーブルで同時実行 DDL をブロックしていた (Bug #69668、Bug #17054007)。

- RPM パッケージが内容に小文字のタグを提供していなかった。たとえば、サーバ RPM が **mysql-server** ではなく、**MySQL-server** を提供するように示していた (Bug #69830、Bug #17211588)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。